

平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年5月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ジェクシード

コード番号 3719 URL <http://www.gexeed.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 大島 剛生

問合せ先責任者 (役職名) 経理IR部 マネージャー (氏名) 町田 英彦

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

TEL 03-5259-7010

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第1四半期の業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	219	△35.3	△20	—	△20	—	△21	—
25年12月期第1四半期	339	—	6	—	2	—	1	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	△1.73	—
25年12月期第1四半期	0.15	—

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、平成25年12月期第1四半期累計期間については、潜在株式は存在するものの、希薄化効果を有していないため記載しておりません。平成26年12月期第1四半期累計期間については、希薄化効果を有している潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年12月期第1四半期	405	—	134	—	32.8
25年12月期	470	—	155	—	32.9

(参考)自己資本 26年12月期第1四半期 132百万円 25年12月期 154百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	579	1.8	10	—	7	—	5	—	0.40
通期	1,315	18.2	60	—	50	—	40	—	3.17

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期1Q	12,600,732 株	25年12月期	12,600,732 株
26年12月期1Q	236 株	25年12月期	236 株
26年12月期1Q	12,600,496 株	25年12月期1Q	9,291,009 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国の経済は、デフレ脱却に向けた経済政策や金融政策等の効果もあり、企業収益が改善され、また消費税率の引き上げ前に個人消費は駆け込みで増加するなどの景気回復基調がみられるものの、依然として先行きは不透明な状況が続いており、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっている状況で推移いたしました。

企業収益の改善も緩やかに促進されているものの設備投資の促進までには至らず、依然として当社にとって厳しい状況にあります。

このような経済環境のもと、当社はシステムコンサルティング事業の基盤強化を確立するため、以下の課題に取り組んでおります。

1. 営業体制の強化と事業部門の採算性の改善
2. 内部資源単価の見直し、仕入れ外注単価の見直し、品質管理の強化等によるプロジェクト採算の改善
3. 内部技術者の教育・訓練の促進による機能・能力の改善
4. 高度なノウハウを有した人財の確保
5. 将来性のある新規ビジネスの開拓
6. 業界での業務提携、連携等による成長速度の加速化
7. 全ての領域においての大胆な経費の抑制と削減

各サービスにおける概況は以下の通りです。

システムコンサルティング、ビジネスコンサルティング分野においては、ERPの新規案件の獲得に邁進しております。なお並行して既にシステム導入済みの顧客に対しましてもバージョンアップグレードの提案や他のコンサルティングメニューによりアプローチを行っております。また、プロジェクト採算管理の徹底による売上総利益の確保、有償稼働率管理による採算性の向上、また収益の早期回復に向けて意識改革を継続しております。当第1四半期累計期間においては、前事業年度に採算割れのあった大型プロジェクト案件の影響によりコンサルタントの有償稼働率が低下したことで、売上高が減少してしまいました。

現在、従来の人財依存型コンサルティングビジネスに加えて、昨年より販売を開始したタレントマネジメントシステムや、製品販売型ビジネスに事業の多様化及び多角化を図っており、グループウェア間スケジュールの同期化を図るソフト、「GX_Sync」の受注など、その実績を積み上げているところであります。

eマーケティング分野においては、ビッグデータ解析が評価を受け、またWebサイトを最適化するソリューション「GX_UX」の受注も伸び始めております。

これらの結果、第1四半期累計期間の業績につきましては、売上高219,771千円（前年同期比35.3%減）、営業損失20,234千円（前年同期は営業利益6,001千円）、経常損失20,898千円（前年同期は経常利益2,338千円）、四半期純損失21,799千円（前年同期は四半期純利益1,393千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

総資産は、前事業年度（以下「前期」という）末と比べ65,471千円減少し、405,417千円となりました。

流動資産は、前期末に比べ、65,612千円減少し、359,220千円となりました。これは主に売掛金の減少によるものであります。

固定資産は、前期末に比べ、141千円増加し、46,197千円となりました。これは主に有形固定資産の増加、投資その他の資産の減少によるものであります。

負債合計は、前期末に比べ、43,627千円減少し、271,291千円となりました。

流動負債は、前期末に比べ、36,140千円減少し、233,961千円となりました。これは主に、買掛金の減少によるものであります。

固定負債は、前期末に比べ、7,487千円減少し、37,329千円となりました。これは主に、長期借入金の減少によるものであります。

純資産合計は、前期末に比べて21,843千円減少し、134,126千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年12月期の業績については、平成26年2月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第1四半期累計期間において、前事業年度に採算割れのあった大型プロジェクト案件の影響によりコンサルタントの有償稼働率が低下したことで、売上高が減少し、営業損失、経常損失、四半期純損失を計上いたしました。当社は、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が発生していると考えられます。

こうした中、1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する定性的情報に記載の課題に取り組むとともに、以下の施策を講じております。

1. 借入金の返済による負担金利の軽減。販売管理費の削減による利益率の改善
2. プロジェクト管理の抜本的な改善によるプロジェクト収益構造の改善
3. 技術者の教育訓練によるスキルアップ及び多能化による稼働率の改善
4. 即戦力となる技術者の新規採用の促進
5. 将来性のある新規事業の開発
6. 組織の強化と意思決定のスピードアップによる競争力の強化

これらの施策による改善は着実に進んできております。業績についても事業計画通りに推移しており、当社といたしましては継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	213,930	210,202
売掛金	198,392	138,823
商品	5,753	-
仕掛品	-	1,313
その他	7,946	9,712
貸倒引当金	△1,190	△832
流動資産合計	424,832	359,220
固定資産		
有形固定資産	9,962	11,215
無形固定資産	23,608	23,444
投資その他の資産		
その他	47,445	46,497
貸倒引当金	△34,960	△34,960
投資その他の資産合計	12,485	11,536
固定資産合計	46,056	46,197
資産合計	470,888	405,417
負債の部		
流動負債		
買掛金	39,531	21,043
関係会社短期借入金	117,000	117,000
1年内返済予定の長期借入金	28,992	28,992
未払法人税等	8,664	2,441
賞与引当金	10,004	13,190
その他	65,910	51,294
流動負債合計	270,102	233,961
固定負債		
長期借入金	31,539	23,791
退職給付引当金	13,277	13,538
固定負債合計	44,816	37,329
負債合計	314,918	271,291
純資産の部		
株主資本		
資本金	917,191	917,191
資本剰余金	1,103,621	1,103,621
利益剰余金	△1,866,000	△1,887,799
自己株式	△28	△28
株主資本合計	154,783	132,983
新株予約権	1,186	1,142
純資産合計	155,969	134,126
負債純資産合計	470,888	405,417

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高		
コンサルティング収入	338,756	219,771
その他の売上高	723	-
売上高合計	339,480	219,771
売上原価		
コンサルティング売上原価	246,427	167,562
その他の原価	584	-
売上原価合計	247,012	167,562
売上総利益	92,468	52,209
販売費及び一般管理費	86,467	72,443
営業利益又は営業損失(△)	6,001	△20,234
営業外収益		
受取利息	17	136
受取補償金	-	870
営業外収益合計	17	1,007
営業外費用		
支払利息	3,445	1,500
その他	234	170
営業外費用合計	3,680	1,671
経常利益又は経常損失(△)	2,338	△20,898
特別利益		
新株予約権戻入益	-	44
特別利益合計	-	44
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	2,338	△20,854
法人税、住民税及び事業税	945	945
法人税等合計	945	945
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,393	△21,799

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社は、コンサルティング事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。